

## イザヤ48章17-19節 「主の良さへの応答」

### 1A 平安を阻むもの

1B 誠実のない信仰 1-5

2B 新しい創造 6-8

3B 主の名のゆえの回復 9-11

4B 御声に聞く 12-16

### 2A 益になる主の命令 17

1B 贖い主

2B 御霊による御言葉

### 3A 従順にある平和 18

1B 川のような豊かさ

2B 海のような圧倒

### 4A 真砂のような子孫 19

1B 多くの子孫

2B 永遠の保障

## 本文

イザヤ書 48 章をお開きください。私たちの聖書通読の学びは、46 章まででしたが、午後礼拝では 47-48 章を一節ずつ読んでいきます。今朝は 17-19 節に注目します。

17 あなたを贖う主、イスラエルの聖なる方はこう仰せられる。「わたしは、あなたの神、主である。わたしは、あなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。18 あなたがわたしの命令に耳を傾けさえすれば、あなたのしあわせは川のように、あなたの正義は海の波のようになるであろうに。19 あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は、真砂のようになるであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもないであろうに。」

イザヤ書の後半部分、40 章からの「慰めよ、慰めよ」という呼びかけから始まった、主からの慰めの言葉は 48 章をもって一区切りが来ます。ここでの慰めの言葉の背景は、バビロンに捕囚の民として住むユダヤ人に対して、ペルシヤの王クロスによって解放されることがありました。その良き知らせに対して、彼ら自身がどのように応答するのかを書いているのが 48 章です。

今読んだところでは、「～であろうに」という新改訳の翻訳によく表れているように、本当はこんなにも良いものが待っているのに、彼らが応答していないという、もったいないという神さまの気持ち表れています。主の命令にさえ聞き従えば、幸せ、あるいは平和が川のようになるであろうに、とこんなにも良い賜物が与えられるのに、それをしていない彼らの頑なさや鈍さに対する叱責がか

かれています。イエス様が復活された後に、甦られたのに神の言葉を信じないでなおのこと、恐れと失望によって暗い顔つきになっていた彼らに対して、「心の鈍い人たち(ルカ 24:25)」と言われたのと同じです。

### 1A 平安を阻むもの

48章の終わりは、「悪者どもには平安がない」という言葉で締めくくられていますが、主が私たちに平安を、シャロームを与えたいと願われているのは明らかです。私たちは、聖地旅行から戻ってきました。エルサレムも訪問しましたが、その名前の意味は「神の平和」です。主なる神がそこに住まれ、平和で支配したいと願われています。しかし、私たち旅行者は、多かれ少なかれ、テロ事件に巻き込まれる危険も多少、注意しながら旅をしました。今のテロは、イスラエルの警察や軍、また宗教的なユダヤ人に対するものがほとんどなので、攻撃を受けることはまずないと思っていましたが、巻き込まれる可能性はゼロではありません。私たちが、主が復活された墓があるとされる「園の墓」に歩いて向かっている時に、パレスチナ人の若者がイスラエル治安警察に拘束されているのを目撃しました。神は平安を与えたいと願われているその場所で、争いが起こっていることは実に残念です。

### 1B 誠実のない信仰 1-5

主は私たちに、平安で満たしたいと願われているのにそうになっていないことがあります。主は、48章にていくつかの理由を挙げておられます。

一つは、「誠実のない信仰」です。「形だけの信仰」と呼んでもよいでしょう。1節後半で、「あなたはイスラエルの名で呼ばれ、ユダの源から出て、主の御名によって誓い、イスラエルの神を呼び求めるが、誠実をもってせず、また正義をもってしない。」と言っています。主の名は呼び求めているのですが、真実なものではないということです。口では主の御名を唱えています、実生活ではバビロンにある世的な事柄に妥協して暮らしていました。それで心が主から離れていて、口先だけのものとなってしまっていることです。

主は、この48章で「聞け」という命令を何度も言われています(1節など)。聞いているけれども、聞いていない。自分のこととして聞いていない。頭では聞いているかもしれないけれども、それが実際生活にどのように当てはまるのかよく考えることをせずに、ただ聞いている。そのような状態です。同じような時代に対して預言した人で、エゼキエルという人がいました。彼もまた、バビロンから解放されるユダヤ人に対して、「聞いているけれども、聞いていない」彼らの問題を指摘しています。「エゼキエル 33:31-32 彼らは群れをなしてあなたのもとに来、わたしの民はあなたの前にすわり、あなたのことばを聞く。しかし、それを実行しようとはしない。彼らは、口では恋をする者であるが、彼らの心は利得を追っている。あなたは彼らにとっては、音楽に合わせて美しく歌われる恋の歌のようだ。彼らはあなたのことばを聞くが、それを実行しようとはしない。」イエス様も、四つの土の喩えで、岩地に落ちる種といばらのある土に種が落ちた時には、御言葉を受け入れている

けれども、心から受け入れていないために、実を結ばせないことを語られました。

## 2B 新しい創造 6-8

平和への妨げの二つ目の要因は、「新しい創造」があるということを知らないことです。6 節から 8 節までに書かれています。「6 あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。あなたがたは告げ知らせないのか。わたしは今から、新しい事、あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせよう。」新しいことを主は行なわれています。けれども、「これまでと同じでしょう」という思いを持っているために、主の語られている声を聞けないのです。

せっかく主が新しい働きを始めておられるのに、すばらしい罪からの解放の約束を聞いているのに、それを別の人間的な原因に帰してしまったり、または自分の至らなさのほうを信じてしまって、主の新しい力を軽んじてしまったりします。私が真実に悔い改めの祈りを捧げた時に、頭のとっぺんからつま先まで神の愛に包まれたのを体全身で感じました。その時は全くほとんどと言ってよいぐらい、キリストについての知識が乏しかったです。けれども、そこで「これは神が行われたに違いない。」と信じて、一步を踏み出しました。もしその信仰の一步がなければ、新しい働きを主が行なわれていても「精神的に高揚しただけだ」とか、「どうぞ以前と同じ生活だろう」とか思ってしまうのです。そのような心を持っていると、せっかく主の与えられた平安を平安として受け取れないでいます。

## 3B 主の名のゆえの回復 9-11

そして三つ目の要因は、「主の御名のゆえの回復」だということを悟っていないことです。9-11 節に書いてあります。「9 わたしは、わたしの名のために、怒りを遅らせ、わたしの栄誉のために、これを押えて、あなたを断ち滅ぼさなかった。」とあります。主が私たちに良くしてくださるのは、私たちが何か得するためではありません。自分たちの益になるということが、神が良くして下さる最終的な目的ではありません。あくまでも、主の御名のゆえ、主の栄光のためであります。主がいかに恵みに満ちた方であるか、その気前良さを通して主のみに栄光が与えられるためです。

それが、自分が益となるのか、そうでないのかという尺度で主の働きを眺めると、ある時にはそのように思えないような時があると不信に陥り、そのように感じる事ができると高揚して喜びます。けれども安定していません。それは神の恵みの深みに触れていないためであり、表面的な付き合いで終わってしまっているからです。そうではなく、「主の栄光が現れればよいのだ」という信仰があれば、結果として自分も平安で満たされます。先ほど自分の神との出会いの話をしましたが、私は抑鬱の傾向がありました。イエス様に付いていく決断をした後もその傾向は残っていました。ある時に、「この鬱的になることは、そのままよい。私は滓なのだ。ただ、主の栄光が現れればよい。」と決めました。自分を直そうとしよとしたら、かえって直ってしまったのです。主の御名のゆえに私たちに回復して下さるからです。

#### 4B 御声に聞く 12-16

そして、最後にまとめとして、「主の声によく聞く」ということをしていないことが、12-16 節に書かれています。「16 わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れた所で語らなかつた。それが起こった時から、わたしはそこにいた。」近づいて、これを聞けと言われていました。心が、思いがさらに一歩近づいて、主に聞きさえすれば、主の声は聞こえます。なぜなら、主はすぐそばにおられるからです。自分が、主がそばにおられることに気づいていないということがあるからです。私たちは、「こういうことが起これば、主がおられる。」と決めてしまっていることがしばしばあります。こういう良いことが起これば、主がしてくださっていることになることと決めてしまっているために、主が良いことをしておられること、あまりにも身近にそのことを行なわれていることに盲目になっています。その「良いこと」という判断基準が自分自身になっており、主ご自身の定めておられる善では必ずしもないからです。

三浦綾子さんの本に確かあったと思いますが、「すべてのことが主から来ていることを認める」ようなことが書かれていました。そのことを私も実践してみました。すると、何気ない電車の中での風景に、主が一面にご臨在しておられる、満ちておられることを感じて、心が新しくされたことを覚えています。全ては主がなされていること、そしてそこには善なる目的があることを認めると、私たちの心に平安が与えられます。

#### 2A 益になる主の命令 17

このようにして、主はご自身が良くしてくださることを語り、そして彼らが聞いて応答して下さっていることを願っておられます。17 節を再び見てください。「17 あなたを贖う主、イスラエルの聖なる方はこう仰せられる。「わたしは、あなたの神、主である。わたしは、あなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。」主は、私たちに命令を与えておられます。その命令は益になる教えです。私たちの理解ではそのように思えない、感じることのできないこともあるかもしれません。けれども、主は益になる、善となることのみを命令しておられます。

#### 1B 贖い主

主はご自身を、「あなたを贖う主」と呼ばれます。これが、私たちが学んできた主ご自身の姿です。主が私たちに近づき、罪の負債を担ってください、私たちのくびきを打ち砕いてくださいます。イスラエル人が貧しくなった時に主から与えられた割り当て地を売らなければいけなくなってしまう時に、近しい親戚が代わりに買い戻しなさいという律法が、レビ記にあります。ルツ記において、その律法に基づいて、ボアズが、ルツの姑ナオミの亡き夫エリメレクの土地を買い戻します。ボアズはルツを自分の妻とするために、土地を買い取ってくれたのです。このようにして、私たちの罪の負債を負ってくださいました。その罪を打ち消してくださいました。ぬぐい取ってくださいました。

それは、ご自身の御子キリストがすべての罪を負ってくださったからです。この方が語られる命令は、重荷とはなりません。イエス様は言われました。「マタイ 11:28-30 すべて、疲れた人、重荷

を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

## 2B 御霊による御言葉

そして、「**あなたの歩むべき道にあなたを導く。**」と言われます。主は導かれる方です。どのようにして導かれるかという、16節に「今、神である主は私を、その御霊とともに遣わされた。」とあるように、御霊によって導いてくださいます。使徒パウロもこう言いました。「ガラテヤ 5:25 もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」御霊に導かれて進みます。主の御霊に導かれることはわくわくすることでもあります。そこには困難が伴うことがあります。イエス様は御霊に導かれて、荒野で誘惑を受けられました。しかし、父なる神が良きものをご自分の子に与えられるところの導きであり、その良きものをいっぱいを受けて、父なる神と一体になって歩まれたのです。「ヨハネ 3:34 神がお遣わしになった方は、神のことばを話される。神が御霊を無限に与えられるからである。」とバプテスマのヨハネは語りました。

使徒ペテロは、例えば、コルネリオという異邦人が、聖霊が降り注がれて救われる場面を目撃しました。けれども初めは、「主よ、私には汚れたものを食べることはできません。」と天からの幻を拒んだのです。使徒パウロでさえ、小アジアでの宣教の働きで満足していたところが、御霊が禁じられて、彼をマケドニアのほうに、ギリシヤのほうに導かれたのです。主の御心の中にいることは、楽しいことです。平安に満ちていることです。

## 3A 従順にある平和 18

### 1B 川のような豊かさ

そして、主の命令に耳を傾ける時に与えられる幸いを約束しておられます。「**18 あなたがわたしの命令に耳を傾けさえすれば、あなたのしあわせは川のように、あなたの正義は海の波のようになるであろうに。**」この幸せは、ヘブル語では「シャローム」です。平安があなたにとって川のようになる、ということです。ちょっと昔のプレイズで、「平和、川のように、心に。」という歌がありました。川のように流れるとはどういうことでしょうか？継続的であるということです。一時的なもの、ある時に平安な気持ちになるけれども、基本的に不安であるという状態です。ここで大事なものは、「**あなたがわたしの命令に耳を傾けさえすれば**」であります。主は、平和の君であられます。この方に触れることは、即、平和に触れるということでもあります。したがって、この方の声に聞き従う時には、いつも絶え間なく、平和が流れてきます。ヤコブが手紙で話しました。「ヤコブ 3:17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。」

### 2B 海のような圧倒

そして、「**あなたの正義は海の波のようになる**」とあります。これもまた、これでもか、これでもかと

いうばかりに押し寄せてくる海の波です。これは、自分の立てる義であれば絶対に起こりません。そうではなく、神の恵みによる賜物としての正義だからです。「ローマ 5:20 律法がはいつて来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるころには、恵みも満ちあふれました。」義と認められるその喜びは、一度限りのものでは決してありません。主が義と認めてくださったということ、この喜びはいつまでもいつまでも続くものです。罪を犯してしまった、失敗してしまったとしても、悔い改め、へりくだる心には、これでもか、これでもかと言わんばかりのキリストの恵みが満ちあふれます。「ヨハネ 1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。」キリストの満ち満ちた豊かさから、恵みという波があれば、さらにその上に恵みの波が押し寄せるのです。

#### 4A 真砂のような子孫 19

そして 19 節を見てください。「19 あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は、真砂のようになるであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもないであろうに。」これは、イスラエル人の父祖であるアブラハムに、主が約束してくださったことです。星の数のように、海の砂のように増やしてくださるということです。

#### 1B 多くの子孫

けれども、これは必ずしも物理的にイスラエル人の人口が増えるということではありません。イザヤは、子孫について、主のしもべがその子孫を見ることをイザヤは預言しています。「53:10-11 しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。」主がご自分の体を私たちの罪のために砕かれて、それで復活なさいました。こうやって、神の子どもとなる者たちを後の世代に数多く見ることとなります。アブラハムへの神の約束は、イエス・キリストの復活によって成し遂げられます。

#### 2B 永遠の保障

それから、永遠の保障です。「その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもないであろうに。」イスラエルの名が主の前から断たれることはない、滅ぼされないという約束です。主は、信仰によって応答したイスラエルに対して、決して見捨てない約束をしておられますし、彼らが民族として最後まで滅ぼすことはしないと約束されています。神が予め初めに彼らを選ばれたのは、彼らが最後に救われることを保障されたからです。同じように、キリストにあって選ばれた者は、最後まで主が守ってくださいます。

どうでしょうか、自分に良きものがないことが問題ではありません。主の良き物を自ら心を閉ざして受け入れないのが問題なのです。心を開いて御声を聞きさえすれば、主の平安は川のように流れ、その義は海の波のように押し寄せてきます。